

タンネウシ貝塚の動物遺体

西本豊弘¹・佐藤孝雄²・白木紀子³

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1. 千葉県佐倉市城内町117番地 | 国立歴史民俗博物館 |
| 2. 東京都港区三田 | 慶応義塾大学大学院博士課程 |
| 3. 東京都渋谷区東4丁目 | 国学院大学学生 |

はじめに

斜里町タンネウシ貝塚の1990年の調査で出土した動物遺体は、中型のダンボール箱で2箱分であった。そのうち1箱は貝類と哺乳類でありもう1箱は魚類であった。魚類は大量にあったので全ての資料に目を通す時間的余裕がなく、ごく一部の資料しか分類できなかった。これまでに判明した種類とその出土量を表-1~6に示した。

貝類

貝類は多量に出土しており、殻頂部が残存し種を同定できるものに限ったとしても、破片総数は1,060片にのぼる。

同定し得た種は、腹足綱12種、斧足綱21種の計33種である。この内、主体をなすものは、ウバガイ、エゾイソシジミ、タガイ、ピノスガイ、サラガイ等である。ウバガイは最も多く出土しており、殻長7~8cmの中型のものが主体となっている。ウバガイに次いで多いのはエゾイソシジミであり、殻長6cm前後の個体が多く認められた。タガイについては殆どが、殻頂部分しか残存していないため、その大きさはよく分からないが、概して良く成長した個体が多いようである。ピノスガイは、殻長6~8cmの個体が主体となっている。

出土状況についてみると、大多数は貝塚1から出土している。貝塚1に比べ貝塚2からの出土量は少なく、断定はできないが、両貝塚の内容に顕著な差は認められないようである。ただ、貝塚1についてC-2区とC-3区の出土量を比較すると、黒褐色層中においてはC-3区の方が出土量が多いのに対し、灰褐色層中においてはC-2区の方が出土量が多くなっている点は注目される。

魚類

魚類は大量に出土しており、乾燥総重量では5,394gにのぼる。今回の報告に当たっては全ての資料に目を通すことができず、貝塚1・2について、任意にサンプルを抽出し、分類を行った。

最も多く出土している魚種は、サケ科魚類であり、椎骨では全体の約40%を占める。表中ではイトウ以外のサケ科魚類を一括して「サケ類」としている。この中には小型のマス類も含まれているが、その殆どがシロザケと思われる。サケ科魚類は元来骨質が脆弱であるにもかかわらず、本貝塚中における遺存状態は極めて良好である。椎骨の大半が完存状態で出土したことも、他に類例を見ない点である。イトウについては貝塚2で椎骨が集中して認められた。おそらくは同一個体で、体長1.5m程度の大型の個体と考えられる。

サケに次いで出土量が多いのはカレイであり、椎骨では全体の16%強を占める。表中ではヒラメ、オヒョウ以外の種を「カレイ類」として一括した。この中には、少なくとも数種以上が含まれている。体長40cm級の中型が主体であり、それ以下の小型は少ないようである。また、C-2区貝塚1（灰褐色層）では体長50cm以上の中~大型種が多く認められた。ヒラメ、オヒョウもかなり出土している。表中「ヒラメ類」とした椎骨には、これらのもの

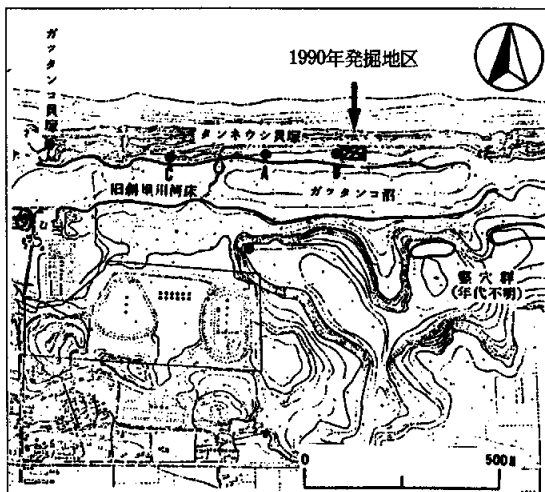


図-1 1969・73・90年の調査位置（金盛・西本1975に加筆）A・B・Cは1969・73年の調査地点

が一括されている。オヒョウは体長1m程度の中型のものが主体であった。

この他、比較的出土量の多い種としては、ウグイ類が挙げられる。大型の個体が多く、ほとんどがマルタと思われる。また、相当量が認められながら、種を同定し得ない小型の椎骨が2タイプ存在する。表中では「種不明A・B」としたものがそれに当たる。この内、Aタイプは小型のタイ類に類似する。無視し得ない量が出土しているだけに、いずれ種の特定を行いたい。

鳥類

鳥類の出土量は少なく、破片総数にして約60片程度である。貝塚1のC-2区で多く出土しており、アホウドリ、ウミガラス、大型のカモメ類、中型のカモ類と種不明の中型鳥類が数種認められた。この内、比較的出土量が多いのはアホウドリとウミガラスである。アホウドリは貝塚1のC-2区から少なくとも2個体出土している。ウミガラスは、C-2区の貝塚1とB-1区のIV層中から少なくとも3個体出土しており、C-2区出土の個体には大型のものが認められた。

陸棲哺乳類

陸棲哺乳類の出土量は少なく、破片総数にして90点余りである。表-5に、各層位・地区別の出土内容を示した。エゾシカ、イヌ、エゾヒグマ、エゾクロテンの4種が同定され、その内エゾシカとイヌが出土量の大部分を占めている。エゾシカについては、少なくとも若獣と成獣が各1個体認められた。イヌはいずれも中型犬で、成獣2体、老獣1体の計3個体以上が出土している。エゾヒグマについては出土位置が不明ながら、成獣の右肩甲骨が1点認められた。エゾクロテンは貝塚1のC-2区において2個体出土している。

注目されるのは、エゾシカとイヌで出土地区、層位が明確に分かれる点である。エゾシカは、その殆どがA区のIV a層及びB区のVII層中から出土するのに対し、イヌはC区のVII層及び貝塚1から出土しており、明らかな相違が認められる。この点に関しては後に海獣類・鳥類・魚類・貝類の出土傾向とも比較した上で考察したい。

海棲哺乳類

海棲哺乳類は多量に出土しており、破片総数は800点にのぼる。各層位・地区別の出土内容は表-6に示した。貝塚1のC-2区に多く出土してお

り、その殆どがアザラシ類とクジラ類である。

アザラシ類については、フィリアザラシに加えアゴヒゲアザラシないしはクラカケアザラシが認められ、少なくとも計5個体が含まれている。年齢は幼獣が多い。幼獣については種の同定が困難であり、断定はできないが、大部分はフィリアザラシであると思われる。ゴマファアザラシが若干含まれているかもしれない。

クジラ類については、小さな破片が多く、種を特定できるものは少ない。A-3区のIV a層で小型クジラのものと考えられる肋骨が1点出土している以外は、全て大型のクジラのものと思われる。また、A-2区のIV a層中から出土した遊離歯は、シャチないしはオキゴンドウのものと考えられる。この他、イルカ類も少量出土している。

まとめ

タンネウシ貝塚の動物遺体の内容は以上に述べた通りである。サケ類が多いことが特徴であり、また、アザラシ類がみられるのに対してオットセイが全く出土していないことも注目される。さらに、エゾシカはA・B地区に多いのに対して、イヌはA・B地区からは出土せず、C地区のみにみられる。また、魚類についてもA・B地区から出土せず、C地区の貝塚部分から大量に出土している。このように、地区ごとに動物遺体の内容が異なることも特徴のひとつである。この点については、以前にタンネウシ貝塚の動物遺体について報告した時にもみられた特徴であった。その時の内容と今回の分類結果をまとめて示すと表-7のようになった。さらに各地点・地区ごとの特徴をまとめたものが表-8である。尚、1973年採集のB地点は1990年の発掘のA・B地区付近と推定されている(図-1)。さて、表-7・8をみると、以前の採集地点を含めた6地点の内容は全て異なっていると言える。ほぼ同じ地点の可能性のあるB地点とB地区をくらべても、B地点の資料にはブリとマグラなどの魚類が多く含まれているのに対して、B地区では魚骨は出土していない。B地点とB地区とは場所が異なるのであろう。

このようなタンネウシ貝塚の地点ごとに動物遺体の内容が異なることについては、アイヌ文化の「送り」儀礼が示されているという意見がある(宇田川、1985など)。しかしながら、本貝塚は砂丘上にあり、動物の遺骸を廃棄した後すぐに砂

が堆積したと考えられるので、各地点ごとの内容の違いは廃棄の季節の違いなどを反映しているのではないかと考えている。すなわち、各地区の動物遺体は、一回か一季節の廃棄に伴うものであって、それほど長い期間のものではないために、地区ごとの内容が異なっていると考えているのである。

最後に、タンネウシ貝塚はガッタンコチャシの前面（海側）にあり、包含層の分布域が広いことから、斜里アイヌの集落の一部と思われる。今回

の発掘によって認められた二層の火山灰が、樽前 a (1739年降下) と駒ヶ岳 c2 (1694年降下) であるとするれば、18世紀前半という年代が確実な資料として、今回の発掘で得られた資料は、非常に貴重な資料ということができる。

引用文献

- 金盛典夫・西本豊弘、1975：斜里町タンネウシ貝塚採集品、北海道史研究 7：35-43
 宇田川 洋、1985；アイヌ文化期の送り場遺跡、考古学雑誌 70, 4：32-78

表-1 出土動物遺体種名

I 軟体動物門 Phylum Mollusca	
a. 腹足綱 Class Gastropoda	
1. ユキノカサガイ	<i>Acmaea (Niveotectura) pallida</i>
2. ユキノカサガイ科の一種	Acmaeidae gen. indet.
3. エゾタマキビ	<i>Ezolittorina squalida</i>
4. エゾタマガイ	<i>Tectonatia janthostmoides</i>
5. キタタマガイ	<i>Tectonatia russa</i>
6. タマガイ類	<i>Tectonatia</i> sp.
7. ヨウラクガイ類	<i>Ocenebra</i> sp.
8. ヒメエゾボラ	<i>Neptunea arthritica</i>
9. チヂミボラ類	<i>Nucella</i> sp.
10. オホーツクバイ	<i>Buccinum ochotense</i>
11. モノアラガイ	<i>Lymnaea (Radix) japonica</i>
12. モノアラガイ科の一種	Lymnaeidae gen. indet.
b. 斧足綱 Class Pelecypoda	
1. エゾタマキビガイ	<i>Glycymeris yessoensis</i>
2. イガイ科の一種	Mytilidae gen. indet.
3. エゾキンチャクガイ	<i>Chlamys (Swiftopecten) swiftii</i>
4. ホタテガイ	<i>Patinopecten (Mizuhopecten) yessoensis</i>
5. マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>
6. カワシンジュガイ	<i>Margaritifera laevis</i>
7. タガイ	<i>Anodonta japonica</i>
8. ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i>
9. エゾイシカゲガイ	<i>Climo cardium californiense</i>
10. エゾワスレガイ	<i>Callista (Ezocallista) brevisiphonata</i>
11. ビノスガイ	<i>Mercenaria stimpsoni</i>
12. ウバガイ	<i>Spisula sachalinensis</i>
13. エゾバカガイ	<i>Mactra chinensis carneopicta</i>
14. エゾイソシジミ	<i>Nuttallia ezonis</i>
15. サラガイ	<i>Peronidia venulosa</i>
16. アラスジサラガイ	<i>Peronidia zyonoensis</i>
17. ベニサラガイ	<i>Peronidia lutea</i>
18. アメリカサビシラトリガイ	<i>Macoma inquinata</i>

表-1 出土動物遺存体種名

19. エゾマテガイ	<i>Solen (Solenarius) krusensterni</i>
20. オオミゾガイ	<i>Siliqua alta</i>
21. チシマガイ	<i>Panomya ampla</i>

II 脊椎動物門 Phylum Vertebrata

a. 魚綱 Class Pisces

1. エイ目の一種	Batoidei fam. indet.
2. ツノザメ類	<i>Squalus</i> sp.
3. ニシン	<i>Clupea pallasii</i>
4. サケ類	<i>Oncorhynchus</i> sp.
5. イトウ	<i>Hucho perryi</i>
6. ウグイ類	<i>Tribolodon</i> sp.
7. タイ科の一種	Sparidae gen. indet.
8. カサゴ科の一種	Scorpaenidae gen. indet.
9. アイナメ類	<i>Hexagrammos</i> sp.
10. ホッケ	<i>Pleurogrammus azonus</i>
11. カジカ科の一種	Cottidae gen. indet.
12. ヒラメ	<i>Paralichthys olivaceus</i>
13. オヒョウ	<i>Hippoglossus stenolepis</i>
14. カレイ科の一種	Plesronectidae gen. indet.
15. マダラ	<i>Gadus macrocephalus</i>
16. タラ科の一種	Gadidae gen. indet.

b. 鳥綱 Class Aves

1. アホウドリ	<i>Diomedea albatrus</i>
2. ウミガラス類	<i>Uria</i> sp.
3. カモメ類	<i>Larus</i> sp.
4. カモ類	<i>Anas</i> sp.

c. 哺乳綱 Class Mammalia

1. エゾヒグマ	<i>Ursus arctos yesoensis</i>
2. イヌ	<i>Canis familiaris</i>
3. エゾクロテン	<i>Martes zibellina brachyura</i>
4. フイリアザラシ	<i>Pusa hispida</i>
5. アゴヒゲアザラシ	<i>Erignatus barbatus</i>
6. アザラシ科の一種	Phocidae gen. indet.
7. エゾシカ	<i>Cervus nippon yesoensis</i>
8. イルカ類の一種	Delphinidae or Phocaenidae gen. indet.
9. クジラ類の一種	Cetacea fam. indet.

表-2 貝類出土量

層位	地区	その他																		
		ウバガイ	ピノスガイ	エソイソシジミ	エソバカガイ	サラガイ	アラスジサラガイ	ホタテガイ	エゾタマキガイ	タガ	カウシシユガイ	エゾタマガイ								
		L R	L R	L R	L R	L R	L R	L R	LR	LR	L R	L R								
II a	A-2							1	1											
	A-3							1	1			1								
	A-3		1			1		2	1	1	1	2								
IV a	A-2	2																		
	A-3	1	6	1		1					1									
	A-3		1																	
IV c	A-3			1																
	C-1		1																	
	C-3	2	2																	
	C-4		2																	
IX	A-1	1	1																	
	C-2	16	16	2	2	4	4	1	1	2										
貝塚1	黒褐色	C-3	114	112	12	8	41	21	5	4	18	23								
	灰褐色	C-2	75	75	10	15	43	38	13	7	13	19								
	C-3	23	21	7	10	7	6	2	1	2	4									
貝塚2	褐色	C-2	11	6	1	10	5	2	2	2										
	灰・暗褐色	C-3	1	1																
	建物址遺土	C-1	247	233																
計		247	233	39	38	105	74	22	17	34	48	6	12	5	4	34	131	4	6	14

註 L : 左殻、R : 右殻 エゾタマキガイ及びタガについては左右の殻を一括して示した。数字に関しては()付が破片数、?付が断定はできないが可能性強いものを示す。

表-3 魚類出土量

層位	地区	その他												サンブル重量 (g)	魚骨重量 (g)							
		サケ	カレイ	ヒラメ	ソイカサゴ	カジカ	アイナメ	ホウガイ	ウグイ	ニシ	マツノザメ	エ	種不明			同定不可	破片					
		類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	A	B	他								
貝塚1	黒褐色	C-3	156 (151)	35 (20)	3 (9)		13	16 (1)	3	?1				19	69	78	207	299				
	灰褐色	C-2	685 (515)	1	248 (63)	72 (9)	1	7	13	5	14	162	38	21	1	1	217	23	378	263	583	3,532
	C-3	137 (71)		23 (23)	1						66 (2)		1		6	20	56	58	160	233		
貝塚2	暗褐色	C-3	81 (70)	20 (4)	56 (9)		2	7	4		29 (1)				4		2	40	104	268		
計			1,059 (807)	21 (4)	360 (29)	76 (9)	1	2	18	14	273 (4)	41	22	1	1	246	43	505	439	1,054	4,332	

註 Vom : 鋤骨、Pmax : 前上顎骨、Dent : 歯骨、Max : 上顎骨、Art : 関節骨、Qu : 方骨、Pop : 前鰓蓋骨、Op : 主鰓蓋骨、Ot : 耳石、Ih : 第一血管間棘、L : 左、R : 右

表-4 鳥類出土量

層位	地区	アホウドリ	ウミガラス	その他	種不明	破片	
IV a	A-3					2	
	B-1		Tib.L.F1 [小型]		Cor.(1)	11	
	C-2					?	
貝塚1	黒褐色	C-2	Hum.R.F1 Mc.L1	Cor.R1 Hum.L1 Hum.L上1 [大型] Hum.R.F1 [大型]	カモ類 Sea.R1	鱗骨1 [中型] Hum.R中1 [中型] Ul.L.F1 Fem.fr.1 Tib.R.F1 [中型] Mc.R.F1 Ve.2 [中型]	11
	灰褐色	C-2	Hum.R.F1 Rad.中(1)		大型カモメ類? Ul.L.F1 中型カモメ類? Ul.R1	Cor.R1 Sca.(1) [中型] Ul.(1) [中型] Fem.L.F2	17
		C-3					1
貝塚2	褐色	C-2		中型カモメ類?	Cor.L1		

註 Sk : 頭蓋骨
 Max : 上顎骨
 Man : 下顎骨
 Sca : 肩甲骨
 Cor : 鳥口骨
 Hum : 上腕骨
 Ul : 尺骨
 Pel : 寛骨
 Fem : 大腿骨
 Tib : 脛骨
 Fib : 腓骨
 Mc : 中手骨
 Mt : 中足骨
 Mtc : 中手骨
 ないしは中足骨
 At : 環椎
 Ve : 椎骨
 Rib : 肋骨
 Ph : 指骨
 Ph1 : 基節骨
 Ph2 : 中節骨
 Ph3 : 末節骨
 L : 左、R : 右

表-5 陸獣出土量

層位	地区	エゾシカ	イヌ	その他	破片	
不明	不明			ヒグマ Sca.R1 Ad.		
II a	A-2	? (1)				
III a	A-2			種不明 Ve.(1)		
IV a	A-2	Man.R1[yo] (M23), Rad.R.F1[ad], Rad.中1, Ph2.1-(1)				
	A-3	Tib.R中1, Mt.中1, Ast.R1			3	
	A-3	Cal.R1			1	
VII	B-1	Ant.2, I.1, Ul.R1, Tib.L中2, Pel.L1[ad], Cal.L1		種不明小型陸獣 Rib.?(1)	4	
	B-2	Man.R1[ad] (HXXP123M123)				
	C-2			種不明陸獣 Rib.(1)		
	C-3		Max.L1 (1)			
	C-4		Man.L1[ad] (CP234M12) Man.R1[ad] (P34M1)			
貝塚1	黒褐色	C-2	Rib.1・(1)	Man.L1[ad] (XXXCP1XP34M12) Man.R1[ad] (XXP234X) Sk.R (1), Ul.R1, Pel.R1, Tib.? (1), 四肢骨 (1) Fem.中? (1), Fib.? (2), Mtc.? (1), Ph2.?, ?(1)	エゾクロテン [小] Man.L1 種不明小型陸獣 Man.1 (H?) Ph2.1 種不明 Ph.1	5
	灰褐色	C-2	Rib.?	下顎関節突起L1, Fem.R.F(1), Ph2.1, Rib.?, ?(1)	エゾクロテン Sk.(1) Man.L1	2
		C-3		Man.L1[ad] (XXXCP1XP34M12)	小型陸獣 Mct.1, Ph.1	2

L : 左、R : 右
 上 : 近位部
 中 : 中間部
 下 : 遠位部

表-6 海獣類出土量

層位	地区	アザラシ類	クジラ類	イルカ類	種不明	破片
II a	A-2		(1)			
III a	A-2		大型クジラ 道産曲1 [シヤチ or オキゴンドウ]	Ve.(1)		
IV a	A-2		小型クジラ? Rib.1			
	A-3		(1)			
	A-3		(1)			
VI	B-1		(10)		Rib.1	2
	B-2					
	C-2		Rib.(1), (17)			1
	C-3	大型アザラシ 肋骨R(1)	大型クジラ Rib.2	Ve.(1)		
	C-4		(4)			1
IX	A-1		(1)			
	A-3	フイリアザラシ 肋骨R1				
	B-1				Rib.1 Ph.1	
貝塚1	黒褐色	C-2	フイリアザラシ 肋骨L1 アゴヒガアザラシ? 後頭骨R1 アゴヒガアザラシ? At.1[ad] フイリアザラシ? Fem.R1[pu] 肋骨(5) Sca.L1[pu] Hum.R中1[pu] Rad.上(2) Mct.1[pu] Tib.L1・R1[pu] Ph.6[pu]	(161)	Sk.(1) Rib.17 Ph.3	458 21
	灰褐色	C-2	肋骨(1) Sca.L2 (1) [pu] Rad.R上1[pu]	大型クジラ Max.(1) (96)		Rib.5 Sk.?(1)
		C-3	大型アザラシ? Max.L中1	(4)	Max.?(1) Sk.(1)	
	褐色	C-2	肋骨L(1)			
貝塚2	灰+暗褐色	C-3	フイリアザラシ Man.R1[ad?] (CXXXXX) Cは歯根のみ	(2)		Sk.(1) Ph.3.1 Rib.1
	建物址覆土	C-1		(18)		
	C-2		(7)			

[pu] : 幼獣
 [yo] : 若獣
 [ad] : 成獣
 上顎骨及び下顎骨の歯式表示は歯槽の存在を×印で示し、切歯・犬歯・前臼歯・後臼歯の歯類をそれぞれI・C・P・Mの記号で表した。数字はそれぞれの歯種の第何歯が残存しているかを示す。数量表示については○付が破片、?

付は断定できないが可能性が強いものを表す。

表-7 1969・1973年と1990年の出土内容比較(1)

種名	1969・1973年			1990年			不明
	A地点	B地点	C地点	A地区	B地区	C地区	
I 軟体動物門							
a. 腹足綱							
1 ユキノカサガイ						○	
2 ユキノカサガイ科の一種						○	
3 エゾタマキビ						○	
4 エゾタマガイ				○		○	
5 キタタマガイ						○	
6 タマガイ類						○	
7 ヨウラクガイ類						○	
8 ヒメエゾボラ						○	
9 チヂミボラ類						○	
10 オホーツクバイ	○					○	
11 モノアラガイ						○	
12 ツメタガイ	○						
b. 斧足綱							
1 エゾタマキガイ				○		○	
2 イガイ科の一種						○	
3 エゾキンチャクガイ						○	
4 ホタテガイ	○			○		○	
5 マガキ						○	
6 カワシンジュガイ						○	
7 タガイ						○	
8 ヤマトシジミ	○					○	
9 エゾイシカゲガイ						○	
10 イシカゲガイ類	○					○	
11 エゾワスレガイ			○			○	
12 ビノスガイ	○		○			○	
13 エゾバカガイ		○		○		○	
14 エゾイソシジミ						○	
15 サラガイ						○	
16 アラスジサラガイ		○		○		○	
17 ベニサラガイ			○	○		○	
18 アメリカサビシラトリガイ						○	
19 エゾマテガイ						○	
20 オオミノガイ						○	
21 チシマガイ						○	
22 ウバガイ	○		○	○		○	
II 脊椎動物門							
a. 魚綱							
1 エイ目の一種						○	
2 ツノザメ類						○	
3 ニシン						○	
4 サケ類		○				○	
5 イトウ						○	
6 ウグイ類						○	
7 タイ科の一種						○	
8 プリ		○				○	
9 カサゴ科の一種						○	
10 アイナメ類						○	
11 ホッケ						○	
12 カジカ科の一種		○				○	
13 ヒラメ						○	
14 カレイ科の一種		○				○	
15 オヒョウ		○				○	
16 マダラ		○				○	
17 タラ科の一種						○	
b. 鳥綱							
1 アホウドリ					○		
2 ウミガラス類					○		
3 カモメ類						○	
4 カモ類		○				○	
c. 哺乳綱							
1 エゾシカ	○	○		○	○		
2 エゾヒグマ							
3 イヌ	△						○
4 エゾクロテン						○	
5 ニホンドブネズミ			○				
6 オットセイ	○		○				
7 アシカ科の一種	○	○					
8 アゴヒゲアザラシ	○					△	
9 フィリアザラシ				○		○	
10 アザラシ科の一種	○					○	
11 クジラ科の一種	○	○		○		○	
12 イルカ科の一種		○		○		○	

表-8 1969・1973年と1990年の出土内容比較(2)

調査年	位置	特徴
1969年 1973年	A地点	貝類多い、オットセイ♂・エゾシカ多い、魚類なし。
	B地点	魚類多い、ブリ・マダラ・オヒョウ・カレイ類あり。
	C地点	貝類主体、魚類少ない、オットセイ♂あり。
1990年	A地区	貝類少ない、エゾシカ多い、アザラシ少ない。
	B地区	エゾシカ主体、動物遺体の出土量少ない。
	C地区	貝層が上・下2層あり、動物遺体多い、魚類はサケ主体。 大型のカレイ類・ウグイも多い、アザラシ類・イヌもあるがオットセイはない。 エゾシカもほとんどなし。

註 1990年の発掘では土壌を採集しているため、1969・1973年の資料よりも魚骨が多いと考えられる。
また、C地区ではA・B地区より魚骨が多かったと言える。